

令和5年度学校評価・関係者評価

江別市立江別太小学校

分野	評価目標	学校の自己評価				学校関係者評価
		達成状況	成果	課題	改善の方策	意見
経営の重点	カリキュラムの弾力的な運用	A	○教育活動全体としては、日々の授業も、期間限定・集中的な行事も、組織的に取り組むことができた。	●実施後の振り返りと修正。(実施上の留意点と資質能力を高めるための手立て・取組の記入。)	◎長期休業中に振り返るなどに対応する。また、それらの記入・入力しやすい様式で進める。	・学校での評価はおおむね妥当であると判断。
	新生活様式の定着と規範意識・思いやりを育む教育	A	○主幹教諭や生徒指導加配教諭、生活部、特別支援Coが連携し、積極的な指導に努めることができた。	●生徒指導においては積極的な生徒指導の推進を、児童理解においては、受容と子どもに応じた指導方法の共通理解を図る。	◎指導の共有化を図り、様々な場面(朝の登校から、廊下歩行、あいさつについてなど)で一貫した指導を推進。	
	特別な支援を要する子供の実態把握に基づく手立ての工夫	A	○特別支援Coを中心に教育委員会、SSW、医療機関等とも連携し、できる限りの対応を行うことができた。	●低学年のうちから保護者との関わりや医療、カウンセラーとのかわりなど、コーディネーターと協力しながら継続していく。	◎子どもの実態を把握できるような事例を担当が学習して、子どもの実態を少しでも見取りやすくする様な場の設定。	
	日常の授業(ICT)に直結する校内研修の推進	A	○ICT機器の利用によって、学習意欲向上につながる授業ができるよう心がけていた。	●宿題や自学などの提出が定着していない学級もある。根気強く指導していく必要がある。	◎今後はそれぞれの利活用の仕方を共有できるように工夫する。	
	生きる力の基盤となる健やかな体をはぐくむ活動の工夫	A	○保体部を中心に、朝の30秒体力アップ等の日常的な取組と体育の授業や給食等を通じて活動を進めた。	●毎朝の30秒体力アップで、どこまで走力や持久力などが向上しているかを見とれていない。	◎「すき間時間」を利用して健やかな体をはぐくむことは可能。工夫して学校全体で取り組んでいく。	
教育課程・学習指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などの探究的な能力とのバランスを図った教育課程を編成	A	○当初予定通り教育課程を進行することができた。	●見直しを進め、ある程度整っては来ているが、児童会や外部講師にお願いして行っている出前授業等の精選が必要。	◎改善が必要な授業や取組の洗い直しを行う。	・引き続きグループを細分化するなど指導体制を工夫してほしい。
	児童の抱える課題を把握し、指導方法や指導体制の工夫・改善を図る	B	○算数少数人数加配を活用した指導方法や指導体制の工夫・改善を進めることができた。	●工夫や改善を重ねてきているが、思うように効果が現れていない。	◎効果的な指導の共有化と、記録化により、効率よく指導に当たれるようにする。	
	学び方(太小スタイル)を徹底し、6年間を通して主体的に学習する態度を培う	A	○わかるまで、できるまでがんばっていると回答している児童が多く、学びに向かう姿勢や態度は良い。	●我が子が主体的に学習していると回答した保護者は70%に届かず、回答の差異が現れている。	◎学び方に関わる部分の見直しと周知・徹底。朝の学習時間(フレッシュタイム)を効果的に活用し、主体的に学習する態度を養う。	
生徒指導	「いじめは絶対に許さない」という風土の醸成	A	○ふれあい班活動や集会で、交流学年や学級と関わりを深められて良かった。	●ふれあい班の活動では、高学年の話合いの時間等が必要で負担が大きい。	◎ふれあい班活動を含めた児童会活動の精選。	・高学年が低学年のために活動することは大変有効である。引き続き活動を進めてほしい。
	「生活目標」を生かし、凡事徹底と全校の共同歩調のもと具体的に推進する	B	○アンケートをもとに、全教職員が足並みをそろえて児童の指導に当たるための指導事項の共有ができた。	●挨拶返事をしっかりとするなどの凡事徹底がしっかりとされていない。	◎引き続き全教職員が足並みをそろえて組織的に指導を進められるよう、事ある毎にコミュニケーションを図る。	
小中一貫教育	他校種との実効的な連携を計画的に進める。	A	○各研究会とともに、小中合同で行う行事など、今年度の本格実施に向けて作成したタイムスケジュール通りに進めることができた。	●高学年中心となっている中学校との連携を、低・中学年とも共有して9年間を見通した取組にするにはまだ不十分。	◎全教職員で小中一貫教育を推進していくために、組織的な取組となるよう各校と連携してすすめていく。	・中学校の定期テストと連携した家庭学習強化週間の設定は大変良い。 ・小学校の夏冬休み学習会に中学生がボランティアとして参加し、小学生に学習を教える活動は大変素晴らしい。
	本校の6年間(中学校との連携・接続)を見通した家庭での学習の取組	B	○江陽中学校区3校が同時期(中学校の定期テスト)に家庭学習強化週間を実施し、家庭と一体となって家庭学習の充実をすすめることができた。	●家庭学習の習慣化に向けて、低学年から定着させていく必要がある。	◎発達段階に応じた家庭学習の内容となるよう、手本となる家庭学習の掲示を充実させ、学校だより等において学習内容の例示等を行っていく。	